町内をねり歩く神輿

○親睦・ふれあい活動事例

地域コミュニティと神輿

事例の概要

榎西自治会では、子どもを含めた様々な親睦を図る機会を作り、ふるさとづくりに力を注いでいます。賀詞交歓会、お花見会、ソフトボール大会、野球、ゴルフクラブ会、おとめの会などの活動をし、定期的に時間を共有することで、親睦を図っています。

また、8月初旬には毎年恒例の夏祭りを横山台公園で実施し、夜の宴会や神輿かつぎなど盛大に執り行われます。

特にお神輿には力を注いでおり、茅ヶ崎市の浜降祭（はまおりさい）のお神輿をモデルに、30年前に大人神輿、子ども神輿を手作りで製作をしました。

当時製作した神輿を今でも老若男女を問わず様々な人が一緒になって、伝統と一緒に神輿をかついでいます。

特徴・ポイント

榎西自治会付近の住宅は昭和40年代から50年代にできており、そこに住む大半の家庭では、子どもが成人し、家

を離れ、自治会員が高齢化してきています。こうした中、榎西自治会では、地域を離れた子ども達に心温まるふるさととして、感じてもらえる地域作りに取り組んでいます。しかし、特に何か新しいことをするわけではありません。今まで行ってきた運動や催事をいつまでも継続的に行っていくことで交流を絶やさないようにしています。

また、夏祭りでは榎自治会と日金沢丘自治会と一緒に合同御霊入れ式を開催して交流を深めています。

課題・展望

地域の高齢化に伴う衰退化、自主防災組織の確立など地域に課せられている課題は多くあります。このままではコミュニケーションがとれていても、その年齢幅は狭く、更に衰退していってしまいます。しかし、榎西自治会では、日ごろから、子どもや20代の若い人を交えてソフトボールや旅行などを行い、地域交流を深めています。

このような交流の効果が顕著に現れるのは、神輿かつぎ手です。それは、普段から自治会の行事に参加しない人がいきなり神輿かつぎに混ざるのは勇気が必要であるため、なかなか難しいといえます。しかし、日常から何らかの交流があれば、自治会に参加することにとまどいはありません。神輿かつぎ手が減少しているのは、交流を深めている人が減っているからではないでしょうか。

また、御霊入れ式実行委員長で榎西自治会の神輿を製作した本多さんは「廃止することは簡単だが、継続することは非常に大変なことである。」と語っていました。

色々課題はありますが、大切なことはこの言葉がすべてを物語っていると思います。

神輿製作者 本多さん（左端２列目）と参加者全員

榎西自治会の若手のみなさん

団体の基礎DATA

団 体 名◇榎西自治会
創 立 年◇昭和50年
世 帯 数◇150世帯
代表者名◇中村　良文さん

問い合わせ▶自治会長　中村　良文さんまで

体験・取材した職員から一言！

青少年学習センター
葛貫　圭吾

災天下の中、お神輿を担ぐことは正直しんどいです。しかし、それがしんどければしんどいほど、達成感が生まれ、人と人との関わりあいが強くなります。

初対面の私を心温かく迎えてくれ、やさしく接してくれました。私は地域の基礎を学びました。

高齢化、疎遠化が進む現代、根本的な課題は多くあるけれども、いつまでも続けていく必要性、難しさを学ぶことができました。

若い力を活力とし、いつまでもふるさとを大事にしてほしいと思います。

まちづくりスローガン

○親睦・ふれあい活動事例

結束力の強さが活動の支え

事例の概要

橋本末広町自治会では、毎年、公民館・地域行事を含めた年間スケジュールを作成し、毎月様々な活動が催されています。

単独の活動としては、「防災訓練」、「子ども神輿」、「夕涼み会」などがあります。

防犯に関しては、自治会独自で地図を作成し、全ての防犯灯に番号が付いているため、電球が切れてもすぐにどの場所の防犯灯か分かるようになっています（3年更新）。

自治会員有志による橋本七夕祭りには、様々な年代の会員が参加しています。毎年、大工・電気店・塗装業などを営む会員がそれぞれの職種を生かし、協力して大規模な竿を作成、メイン通りでも一際目を引く存在となっています。また名物のおでん等の仕込みもあり、精力的に活動しています。

地域で行われる夕涼み会については、子ども広場で開催されており、七夕祭り同様多くの会員が参加し、今年で12回目を迎えました。

特徴・ポイント

自治会活動は、地域のソフトボール部に所属している会員が中心メンバーとなり、支えています。

初代の会長が自費で防火用水を設置するなど、奉仕の気持ちを持って活動してきた風土があり、また現会長（8代目）の金山会長自身も率先して活動し、住民同士のトラブルなどを円満に解決し、信頼関係を築いてきました。

また、忙しい会員の事情を考慮し、毎年13回程度開かれていた役員会の内、簡易なものを廃止し、現在は8回程度に縮小、更に各役員の役割分担を明確に書面にすることで役員の不安を解消するなど独自の工夫をしています。

このような会長の気持ちに応えるように会員の多くが協力的に活動しサポートしています。その相乗効果により、七夕祭りの準備のような大変な活動についても楽しみながら取り組んでいる様子が感じられました。

地域にみんなが集まることのできる広場があることが活発な活動を支えている要因と言えます。

課題・展望

とにかく結束力の強い橋本末広町自治会。今回取材した七夕祭りや夕涼み会などのイベントには、親子や若夫婦など様々な年代の会員が協力して活動していました。

また、地域内のアパートに住んでいた会員が、同地域内にずっと住みたいと一軒家を構えるという事例もあったとのことです。

しかしながら「結束力が強いが故に新規加入者の敷居が高いのかも知れない」という金山会長のコメントの通り、多くの会員が集う夕涼み会への未加入者の参加率は低く、新築マンションやワンルームアパートなどが混在している地域でもあるため、未加入者対策が今後の課題といえます。

また、活動の拠点となる広場については、所有者の方の好意に依存している状況であるため、存続方法について今後も継続的に取り組んでいく必要があると考えています。

七夕まつり

自治会活動を支える若手メンバー

団体の基礎DATA

団 体 名◇橋本末広町自治会
創 立 年◇昭和33年
世 帯 数◇395世帯
代表者名◇金山　勝郎さん

問い合わせ▶金山　勝郎さんまで
電話　042－772－4565

自治会伝統「名物末広おでん」

体験・取材した職員から一言！

道路管理課
相良　　剛

バイタリティ溢れる金山会長から感じられるリーダーシップと、それを支える多くの中心メンバー。「まち」を作るのは建物や道路ではなく、そこに住む人と人とのつながりによって作られるのだと感じました。

みんなで元気に、イッチニ、サンシー

○親睦・ふれあい活動事例

大人も、子どもも、みんなで参加！ラジオ体操

事例の概要

上九沢自治会のある、大沢地域のまちづくりを考える組織である「大沢を考える会」では、地域交流のきっかけとして「ラジオ体操のまち大沢」をスローガンに、平成19年から12の会場でラジオ体操を始めています。上九沢自治会では上九沢こどもの広場で、主に自治会役員が実行委員となって開催しています。

体操は4～11月の第3日曜日朝6時半からＮＨＫのラジオ放送に合わせて行います。ラジオは各会場で準備します。参加者にはスタンプカードが配られ、出席するごとにスタンプを押します。小学生以下の子どもは4回以上出席すると文房具などの記念品が配られます。カードや記念品等は大沢を考える会が準備しています。参加人数は月によって変わりますが、50～70人ほどで、市の広報課の取材があった7月は１３７人が集まりました。子どもから大人まで気軽に参加しています。

特徴・ポイント

大沢地域で一斉に始まった事業ですが、上九沢自治会では皆に広めるため、普段から公民館等に看板を出してＰＲに努めています。これが好評で地域全体でも使おうということになり、当初のデザインを元にして地域全体の看板を作成し、掲示することとなりました（左写真）。

地域全体で使い始めた看板

看板のほかに、4月に体操が始まる前にお知らせの回覧を行い、その後も活動の様子を知らせる写真入りの広報

を回覧しています。これは元自治会の役員をやっていた方が、役員をやめた後も厚意で作成してくれているもので、フルカラーで作られています。写真が多用されているため、自分や子ども、知り合いが映っていないかと楽しみに見ている人が多いです。体操には、これまで自治会の行事に参加したことのない人の顔も見ることがあります。また、少年野球のチームが朝の練習前に参加するようになり、子どもの数も増えました。ウォーキング途中のお年寄りが立ち寄って参加することもあります。親と子ども、祖父母と孫等が手をつないで集まってくるのを見ると、皆ほのぼのとした気持ちになります。これは、家族の絆を深めるのにも一役買っています。

課題・展望

この事業の完全な周知は困難ですが、未参加者に対して、今後どうPRしていくかが課題です。広報紙などは、おおむね昼間のうちに回覧され、外で働いている家族は全く見ておらず、行事自体を知らなかったということもよくあります。自治会活動は口コミによる広報も大きいので、声をかけあうようにすると良いと考えています。

また、上九沢地区は自治会区が広く大きな道路に分断されており、会場が道路で隔てられた人たちの参加が少ないという課題もあります。体操だけを行うのではなく、他に交流会などを行えば、ちょっと遠い人たちも参加するのではないかという意見もありますが、ラジオ体操という、準備も短時間で終了する、気軽に参加出来る行事だからこそ続けられるという見方もあります。

上九沢自治会は、毎年役員の総入替を行うので、来年の実行委員は全員変わります。しかし委員を経験することで活動を知り、継続して参加する人が多くいます。活動は長く続けていくことで浸透し、参加者も増えていくので、新たに始まったこの事業を大切にし、交流の輪を広げていきたいと考えています。

回覧はカラー写真が使われていて目を引く。みんなは載っているかな？

体験・取材した職員から一言！

市民協働推進課
鈴木亜由美

誰でも参加できる、無理せず続けられるというのがすごく良いと思います。自分も子どもの頃、夏休みにラジオ体操に行ってスタンプを押してもらうのが楽しみだったことを思い出しました。

市民協働推進課
北村　工匠

体力作りを兼ねて地域交流が出来ることが非常に良いと感じました。

カラーの広報は、今まで見たことがないくらいの出来栄えで、感服しました。

団体の基礎DATA

団 体 名◇自治会法人 上九沢自治会
創 立 年◇昭和29年（平成18年法人化）
世 帯 数◇749世帯
代表者名◇自治会長　登坂　喜夫さん

問い合わせ▶自治会長　登坂さんまで
電話　042－762－6310

地域内を練り歩く神輿

○親睦・ふれあい活動事例

住民の親睦を深める夏祭り

事例の概要

田名清水の夏祭りは、平成5年頃、神輿を修復したことをきっかけに、子供たちが成長した際に故郷自慢ができるように、また、夏休みの良い思い出になればとの思いから、年々盛り上がりをみせ、7月の中旬に2日間にわたって、神輿、お囃子、芸能大会などが行われています。また、このお祭りは、自治会を中心とし、清水神輿保存会、婦人会、子ども会などが参加するとともに、地域の事業者、飲食店による神輿の練り歩きの休憩場所の提供やご祝儀などの協力もいただき、地域全体が一体となって、夏祭りを盛り上げています。

特徴・ポイント

夏祭りの中でも注目すべき点は、市内でも珍しい山車人形で、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）を載せた山車が披露されることです。その高さは、地上7ｍとなり、その迫力は圧巻です。

山車の躯体と人形の一部は、大正時代から続くものであり、清水神輿保存会などの努力により、伝統が受け継がれています。また、「清水」の木札、Tシャツの着用による、地元意識を醸成する取り組みや、模擬店では焼き鳥、焼きそばなどを、お手頃価格で販売し、子どもが参加しやすい工夫を心がけています。

このように、夏祭りの伝統を守っていくことが、古くからある地域と新興地域の住民の親睦を深める良い機会となり、地域の活性化にも繋がっています。

課題・展望

運営にあたっては、運営マニュアルの作成、関連団体との役割分担の資料作りを事前に行うことが大切なことと考えています。このことから、約3ヶ月前の準備段階から役員同士の親睦会を兼ねて会議を持つなど負担軽減に努めることにより、夏祭りの伝統を守り、更なる盛り上がりに繋がるよう工夫しています。

また、今後については、自慢の山車人形を田名地区のイベントなどで披露し、「わが清水自治会」を広くアピールすることを検討しています。

子どもたちのお囃子

山車人形と神輿

団体の基礎DATA

団 体 名◇自治会法人 田名清水
創 立 年◇昭和22年
世 帯 数◇約610世帯
代表者名◇野崎　新二さん

問い合わせ▶野崎　新二さんまで
電話　042－761－0911

子どもで賑わう会場

体験・取材した職員から一言！

小田急多摩線
新交通推進課
峰岸　康弘

「次世代を担う子どもたちのために」という地域全体の温かい思いが、夏祭りの伝統を作っていると感じました。また、その夏祭りに多くの子どもたちが参加し、楽しんでいる姿が印象に残りました。

山車から顔を出す
ひょっとこ

練習の成果を発表！山車に乗ってテンツク、ピイヒャラ！

○親睦・ふれあい活動事例

子どもたちとふるさとの思い出を！夏祭り

事例の概要

昭和30年に南橋本自治会が創立した頃から、毎年夏祭りが行われるようになりました。子どもたちに祭りを通じてふるさとの思い出を作ろうという目的で続けられており、子どもたちによるお囃子が演奏され、神輿、山車なども出ます。毎年土日に開催され、2日間で5,000人以上の人出で賑わう、南橋本の伝統行事です。近隣の自治会からも楽しみにされており、お祭りの日が重ならないようにするよう頼まれているほどです。

祭りを運営する実行委員会は、自治会の本部役員、子ども会・老人会・婦人会・まつり同好会などの各助成団体の代表、商店等が加入している商栄会、自治会の各区長など40人程度で構成されています。最近では、隣のサンベール自治会と共催で行うこととなりました。

特徴・ポイント

お祭りで子どもたちが演奏するお囃子は、6月中旬から練習が始まります。練習は午後6時半から8時半まで週3回、当日までに延べ20回40時間も練習します。南橋本の祭りを伝統的に引き継ごうという人々が結成した「まつり同好会」の方が子どもに教え、「こども育成会」の方が付き添って、休憩時間にはお茶を出してくれます。練習の準備・後片付けなどは全て子どもたちが行っています。お囃子は笛・太鼓・鉦（かね）・踊りがあり、今年のお囃子は34人の子どもが参加しました。

7月からは盆踊り太鼓の練習も始まります。こちらは高学年の子どもや中学生が中心で、OBとして参加する中学生もいます。盆踊り太鼓はすごい迫力で、他の自治会のふるさと祭りから演奏依頼もあるほどです。

小さな子どもも参加出来る山車は、子どもが多いため午前と午後の2回に分けて出すことにしています。また、各家庭に配られる抽選券による抽選時間を、子どもたちが参加しやすい午後6時から8時の間に変更もしました。

この南橋本の祭りの中心は子どもたちですが、地域住民全員の交流と出会いの場でもあります。盆踊りや模擬店も、全てはふれあいの場所として考え

ています。特に模擬店は利益を度外視しており、地域の人々の協力で成り立っています。南橋本のお祭りは、地域全員で作り上げる地域の伝統行事なのです。

課題・展望

南橋本では子どものいる家庭が多く、子ども会も2つに分けています。自治会の皆さんはどの子どもたちも平等に扱い、地域で見守りながら育てていきたいと考えていますが、このような行事のときには、自治会に入っている家庭と入っていない家庭とで差が出てしまうことがあります。例えば、夏祭りでは、お祭りに来た子どもなら誰にでもアイスとジュースをあげられますが、抽選券は自治会に入っている家庭にしか配られません。抽選を出来ない子どもがかわいそうになってしまいます。

このような子どもたちのためにも、自治会加入を促進したいと考えています。南橋本は分譲マンションが増えていますが、様々な理由から加入者のほとんどいないマンションもあります。また、自治会の存在や加入の仕方を知らない家庭もあるため、継続的に加入のお願いのチラシのポスティング等をしてアピールしています

夏祭りは南橋本の伝統です。祭りに参加して思い出を作った子どもが大人になり、次の担い手として、まつりの実行委員に入ったり、お囃子等を教えたりして引き継いでいってほしいと思っています。南橋本をふるさととする子どもたちが生き生きと育ってくれることを願っています。

重いな、わっしょい

団体の基礎DATA

団 体 名◇自治会法人　南橋本自治会
創 立 年◇昭和30年
世 帯 数◇1,271世帯
代表者名◇自治会長　田代　明寛さん

問い合わせ▶自治会長　田代さんまで
電話　042－773－4099

大迫力の盆踊り太鼓

体験・取材した職員から一言！

市民協働推進課
鈴木亜由美

車の誘導や適度な休憩、交代など、子どもたちの安全に気を配りながら皆が楽しめるように工夫しているのがよく分かりました。子どもたちの元気な声と心が浮き立つお囃子の音には、こちらまで楽しくなりました！

市民協働推進課
北村　工匠

地域の子どもたちのためにがんばる自治会の皆さんが、とても楽しそうに活動されている姿がとても印象的でした。

ふるさとに帰ってくる子どもが増えるといいなあと願っています。